

Research Activity Report
Supported by “Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science”

2018.6.8

Affiliation/Position	Wildlife Research Center/M1
Name	中野 勝光

1. Country/location of visit	
屋久島	
2. Research project	
PWS、CETBio	
3. Date (departing from/returning to Japan)	
2018.5.19-2018.5.26 (7days)	
4. Main host researcher and affiliation	
半谷 教授、京都大学霊長類研究所	
5. Progress and results of your research/activity (You can attach extra pages if needed)	
Please insert one or more pictures (to be publicly released). Below each picture, please provide a brief description.	
<p>今回の実習の中で、私は Monkey グループとして、日本に広く分布するニホンザルの亜種とされているヤクシマザルの分布調査を行い、土地利用と標高がヤクシマサルの分布に与える影響を調べた。</p> <p>方法としては、GPS を用いて、センサスルートおよびサルを目撃、糞、音声の位置情報を記録した。その後、QGIS 上でこれらの情報を、屋久島の地図上にマッピングした。ヤクシマサルの分布の土地利用と標高の関係は、センサスルートを 500m ごとに区切り、その区間での detection のありなしを応答変数として、各区間の中点と村からの距離、各中点を中心とする半径 500m の円内の森、人工林、農地の割合、標高を説明変数として、GLM 分析を行った。</p> <p>結果として、標高と森、農地の割合はサルの分布には有意な影響はなかった。一方で、人工林の割合および町からの距離は、サルの分布に有意に関連していることが示唆された。</p> <p>屋久島ではサルは害獣として扱われているため、人の活動がサルの分布に影響を与えている可能性は十分に考えられる。しかし、特に害獣駆除が行われているであろう農地との関連については今回の実習では示唆されなかった。今回の実習でセンサスできた地域は限られていたため、より広い地域の情報をもとに解析すれば、何がヤクシマサルの分布に影響を与えうるのかを明らかにできるだろう。</p> <p>今回の実習は、フィールドでのサンプリングとデータ解析について学ぶ良い機会になったと思う。特に、屋久島は世界遺産にも登録されている地域をとということもあり、人と自然の営みのバランスが重要であり、その一部を実習を通して、サルの研究を通して、感じることはできたのは良かった。</p>	
	
ヤクシマサル	屋久島からの景色
6. Others	